

## 日本英語教育史学会 会報

289

2018 年 10 月 12 日

**HiSELT** Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562  
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室  
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191  
e-mail: membership@hiset.jp会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)  
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873  
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873学会公式ウェブサイト [www.hiset.jp](http://www.hiset.jp)

## 第269回研究例会報告

2018 (平成 30) 年 9 月 15 日 (土), 県立広島大学のサテライトキャンパスひろしま (広島市中区) において第 269 回研究例会が開催されました。参加者は 11 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 平井清子氏 (北里大学) が「戦後台湾の英語教科書における題材内容研究—「文学」の特徴をとらえて」というタイトルでお話しされました。続いて馬本勉氏 (県立広島大学)・河村和也氏 (県立広島大学) による「広島発「ラジオ英語講座」の歴史 (2) : 他放送局との比較を中心に」の発表が行われました。司会は川嶋正士氏 (日本大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は平井氏, ②は馬本氏及び河村氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①たいへん綿密な調査で文学教材の変遷を解明された努力に敬意を表します。文学教材の場合, 語彙レベルの影響が大きいです。戦後の日本は高卒時まで 6,000 語近くから 2,200 語まで減らしましたので, とても文学を読む状況ではなくなりました (最近では語彙を急増させていますが)。その点, 台湾は日本よりずっと語彙レベルが高いので, それが文学教材を支えているのではないのでしょうか。御検討ください。 (みかん舟)

◆①戦後台湾の英語教科書の題材分析ということですが, これを歴史的に辿るだけでは日本英語教育史との関連が読み取れませんので, やはり日本の英語教科書との影響関係を追究するなど, なにがしかの接点を見出しておくことが必要かと思えます。その上で, 影響の有無などは, 教師用指導書などにおいて出典明記がなされている場合には問題ありませんが, そうでない場合にこれを証拠立てることが必要にな

り, その際に, 背景的な情報として政治・社会面での日台関係を踏まえることが求められようかと考えます。 (Dragon)

◆①台湾の高等学校英語教科書全 58 冊 738 章の題材内容を量と質の両面から分析するという作業はご苦労の多い作業であったと思います。「文学」ジャンルの教材について中国, 台湾, 日本それぞれの教科書が取り上げている作家の一致度が高いという分析結果はとても興味深いものでした。教科書の編纂に携わる者は他国の教科書を参照することはよくありますが, それとは別にどの作家を生徒に紹介すべきかを熟慮します。中国, 台湾, 日本の教科書編纂者たちがどの作家を fundamentals と考えるかという基本認識において「一致」していたのはさすがと思いました。 (もみじまんじゅう)

◆①英語教育の議論は, とすれば日本国内の現代という舞台に限定されることにより, 他との比較対照が出来ずに客観的な視野を失う傾

向にあると感じます。本学会は、史的な考察を加えることでこの問題に新たな視点を提供する事を目的とした研究が多くみられます。平井先生の御発表は、海外の英語教育という比較対象を提示する面において貴重な研究であると思われました。また、台湾での史的な研究から得られる視点も新規なものがあったと思います。これらの研究をすることで、現代の日本の英語教育にどのような還元がされるのか、今後研究が深化することを期待しています。1つの視点として、同じテーマで同時期の日本の史的研究を行い、対照すると興味深いと思われました(いえ、1つでも大変なことは重々承知していますが)。(insulae flumen)

◆②放送教育には、①制度化された学校に行けない人などのための社会教育、②中等学校生の補習教育、③受験教育、④実用教育など多面的な性格があると思います。テキスト分析にあたっては、それらのうちのどれを目標にしたのかを明らかにする「性格付け」が必要かと思われました。また、資料発掘を広く学会員に呼びかけることも必要かと思えます。(みかん舟)

◆②昨年に続いてのご発表で、今回は学習者の対象レベルが近いところとして大阪放送局の講座テキスト、ならびに櫻井の女学校用教科書を選んで比較の対象とし、この広島放送局からの講座のもつ性格・意味づけを明確にさせていただきました。岡倉による初期の講座が対象レベルを初級に設定していなかったことにも言及されましたので、各放送局からこのラジオ英語講座が開始されるに当り、担当者に対して教材論の観点からは恐らく基準となるものは示されなかったと推測されますが、この辺りの事情も含め、調査範囲を東京、大阪、名古屋(宇佐美 1980, 1981)以外にも拡げていただき、

この戦前期ラジオ英語講座の全体像を明らかにしていただければと願っております。あわせて、これにより山口(2001)とは異なった分析結果が得られるのではとも期待いたしております。(Dragon)

◆②今回は櫻井役担当の「ラジオ英語講座」テキストと古屋登代子のそれとを比較されたとてもユニークなご発表でした。前者は「教室の英語」、後者は「生活の英語」という印象を受けました。古屋のテキスト中の英語、Pray sit down. / Isn't it cold today? —It is, indeed. などから彼女の英語感覚をうかがい知ることが出来ました。また、櫻井と古屋の語彙リストも勉強になりました。広島発「ラジオ英語講座」の歴史(3)を首を長くして待っています。

(もみじまんじゅう)

◆②昨年に引き続き、興味深く拝聴いたしました。震災の後、諸事に忙殺される中で周到な準備をされたことには感服いたします。お二人の域のあった発表は、ますます円熟味を帯びて来たようです。門外漢なので的外れな感想かも知れませんが、フランスなど、古くより海外でメディアを用いた教育が発達していた国から何かの知見を取り入れたりした痕跡はないのかななど思いながら拝聴していました。Alexander Bain について触れられていたのを見て、明治末期に文法を勉強する人の苦労を感じました。もう 10 年もすると、日本でも Henry Sweet の科学文法が受容され始め、語学の研究法も一新されます。一般学習者は、その潮流をどのように感じてたたのか、本筋ではない点に興味を惹かれました。このような brain storming を受ける事も研究例会に参加する事の恩恵だと感じて居ます。

(insulae flumen)

## <発表を終えて>

平井 清子 (北里大学)

この度は 5 月の全国大会に続き、研究例会で発表させていただく機会をいただきましたことに、まずはお礼申し上げます。私は現在、台湾の英語教育を、戦後改訂発布された高等学校の『課程標

準』、『課程暫行綱要』、そして『課程綱要』と、その準拠版の英語教科書を中心に研究しています。ここ 5 年程は、台湾の戦後から現在までの英語教育の変遷と特徴、そして、その要因を、教科書で扱われている題材内容を通して、教育、社会・文化的、政治・経済的、そして、歴史的背景から調査分析を試みています。本例会では、戦後台湾の高等学校英語教科書で扱われる文学作品とその作者の特徴、およびその要因を考察することで、台湾の英語教育の変遷を捕捉し、さらには日本の英語教育に応用できる側面を明らかにすることを試みる内容の発表をさせていただきました。

発表時の質疑応答と懇親会では、ご参加の先生方に、具体的なご指摘やご意見、今後の研究に必要なご教示等をいただき、心より感謝しております。また、懇親会では自分自身疑問に思っていたことを先生方にお尋ねすることもでき、的確で誠にご丁寧なご意見ご指導をいただくことができ、本当にありがたく、これもこの学会に入れていただけたからこそと改めて感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



### <発表を終えて>

馬本 勉 (県立広島大学) ・河村 和也 (県立広島大学)

発表者は昨年度、広島放送局が 1928 年の開局間もない時期に放送した「初等英語講座」(櫻井 役) のテキスト第二・第三を分析し、その内容・文法・難易度について考察した。これを論文化した『日本英語教育史研究』第 33 号所収の研究ノートでは、中学校用検定教科書とは学習進度の捉え方が異なるという教材の一面を推論したが、広島発であり広島初であったラジオ英語講座の全容解明には多くの課題が残されている。今回は、



櫻井の講座が全国的な流れの中で持ち得た意義をさらに追究するため、同時期に放送された大阪放送局「初等英語講座」(古屋登代子) のテキスト第 2 巻および櫻井が著した検定教科書 *Girls' New Japan Readers* 第 1 巻との比較 (リーダビリティ・語彙) を試みた。語彙・表現に注目すると、櫻井のテキストは古屋に比べ、オーソドックスな「教科書的」性格を帯びていることが明らかになった。前回は、未発見の第一巻の内容を文法の面から推測したが、今回、検定教科書の新出語との比較を通じ、第一巻で導入されたであろう語彙についても概ね推測可能との結論に至った。今後は、フロアのみなさんからの貴重なご助言を踏まえ、論考としてとりまとめたく思っている。

### >> 事務局より

#### >> 『日本英語教育史研究』第 34 号投稿締切迫る

研究紀要『日本英語教育史研究』第 34 号への投稿締切が近付いてまいりました。10 月 31 日 (水) の消印もしくは受付印のある分までを受け付けますので、投稿をご予定の方はご注意ください。

送付先：〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学庄原キャンパス 馬本 勉 宛

## 》) 論文投稿の前にご確認を

学会誌『日本英語教育史研究』に論文の投稿を予定されているみなさまにお願いいたします。すでに「投稿規程」および「投稿論文標準書式」に基づいて原稿を準備されていることと思いますが、特に以下の点にご留意ください。

なお、投稿規程・標準書式は、この5月に刊行した『日本英語教育史研究』第33号をご参照ください。次のリンクより閲覧も可能です。

[http://hiset.jp/toko\\_kitei.pdf](http://hiset.jp/toko_kitei.pdf)

### ◎完成ページで20ページ以内が原則です

すでにお知らせの通り、「標準書式」では文字の大きさ・1ページの行数・1行の文字数・使用フォント・句読点の打ち方なども詳しく定めてあります。今一度ご確認ください。

なお、最初のページは、(1)論文題目、(2)論文題目の英訳または和訳、(3)執筆者名とそのローマ字表記〔例 ERIKAWA, Haruo〕、(4)日本語または英語のキーワード3語、(5)100~150語の英文アブストラクト、(6)本文の順となりますので、漏れのないようご注意ください。

### ◎コピーと受領確認用の葉書をお忘れなく

著者名が必要なのは正本1部のみです。副本には著者名が入らぬよう、プリントアウトもしくはコピーの際にご配慮ください。

また、提出原稿にはページを付していただきます。手書きでもかまいませんので、お忘れなくお願いいたします。

### ◎インターネット上での公開が前提となります

現在、J-STAGE で公開されているのは第24号までに掲載された論考ですが、今後その範囲は拡大される可能性があります。インターネット上で論文が公開されることについては、投稿の段階でご承諾いただいていることとなりますので、くれぐれもご注意ください。

## 》) 英語教育史フォルダ

- ◆鳥飼 玖美子 著『子どもの英語にどう向き合うか』NHK 出版新書、本体 820 円 (2018 年 9 月刊)

「第二節 英語教育史から探る」では、約 80 ページを割いて、幕末の「英語学習の始まり」から現代の「“使える英語”を求めて」までを活写し、教訓を引き出している。

- ◆江利川春雄氏 (和歌山大学) によるオンデマンド版連続講座「英語教育の歴史から学ぶ」(ジャパンライム) が、10 月 5 日よりネット配信された (有料)。内容は以下の通り。

- 第1回 小学校の英語教育は明治から
- 第2回 英語教科書の歴史
- 第3回 受験英語と参考書の歴史
- 第4回 英語学習法の試行錯誤史
- 第5回 コミュニケーション重視への挑戦

## )) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 270 回研究例会 2018 年 11 月 17 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 271 回研究例会 2019 年 1 月 12 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 272 回研究例会 2019 年 3 月 16 日 (土) 京都で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100～200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (3 月発表希望であれば 12 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

## 日本英語教育史学会 第 270 回 研究例会

日 時：2018 年 11 月 17 日 (土) 14:00～17:00

場 所：真宗教化センター しんらん交流館 (京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199)

研究発表① 「*Let's Learn English* の編纂過程：Basic English 導入の試みとその行方」

広川 由子 (愛知江南短期大学講師)

### 【概要】

*Let's Learn English* は、新制中学校用英語教科書の嚆矢である。その編纂方針は GHQ 民間情報教育局 (Civil Information and Education Section) と日本の文部省との間で決定され、語彙の選定にあたっては英国の言語学者オグデン (C. K. Ogden) が考案した Basic English (簡素化英語) が参照されている(広川由子, 2015)。

本報告では、主に占領軍の公式文書を使用して Basic English が最終的にどのように扱われたのかを検討する。

研究発表② 「言語文化教育観の史的変遷から現代の英語教育を考える」

拝田 清 (和洋女子大学教授)

### 【概要】

原始・古代からの日本の外国語・異文化受容のあり方を言語文化教育観という視点で通時的に分析し、現代の英語教育における「実用志向」と「母語話者信仰」との関係性、およびその源泉について検討してみたい。

参加費：無料

問合せ：日本英語教育史学会例会担当 ([reikai@hiset.jp](mailto:reikai@hiset.jp))

- ◆ 例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。
- ◆ 行楽シーズンですので、宿泊をご予定の方は、お早めに各自でご手配ください。

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

【会場案内】 (東本願寺 website : <http://www.higashihonganji.or.jp/about/access/pdfs/map.pdf> より)



【交通案内】

- ・ JR 京都駅中央改札口より徒歩 12 分
- ・ 市営地下鉄烏丸線・五条駅 8 番出口より徒歩 3 分
- ・ 烏丸六条バス停より徒歩 1 分

**EDITOR'S BOX** 昨年と一昨年の EDITOR'S BOX でも話題に取り上げましたが、広島カーブが今年もリーグ優勝し、3連覇を達成しました。豊富な資金があるわけでもないカーブがこんなに強くなる時代がやって来るとは・・・ファンですがちょっと信じられない感じがします。／2013 年に東北楽天イーグルスが優勝して、東日本大震災に苦しんだ東北の人々が元気をもらったように、今夏の集中豪雨で被害に遭われた方々が希望を感じられるよう、広島カーブには今年こそ日本一になって欲しいと願っています。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 [geppo@hiset.jp](mailto:geppo@hiset.jp))